



2023年9月11日

各 位

会 社 名 ギグワークス株式会社
 本 社 所 在 地 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
 代 表 者 代表取締役社長 村田 峰人
 (コード番号 : 2375 東証スタンダード)
 問 合 せ 先 取締役常務執行役員
 管理本部長 小島 正也
 (TEL 03-6832-3260)

**特別損失、繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額(損)の計上および2023年10月期の
 連結業績予想の修正ならびに配当予想の修正(未定)に関するお知らせ**

当社は、本日公表しております2023年10月期第3四半期連結決算において、下記のとおり、特別損失および繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額(損)を計上いたしました。また、あわせて、2022年12月9日に公表いたしました「2023年10月期通期連結業績予想」ならびに「配当予想」を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結子会社における特別損失(減損損失、のれん償却)の計上について

主に日本直販株式会社が展開しているデジタルマーケティング事業と nex 株式会社が運営しているシェアリングエコノミー事業を中心に、特別損失6億37百万円を実施いたしました。

デジタルマーケティング事業は、2022年7月のグループ化以降、事業統合や人員の適正配置の推進によるコスト削減を進める一方、営業力の強化も進めてはいるものの、本格的な収益改善には至っておりません。当初の事業計画からの乖離もあり、将来的な回収可能性を厳格に算定した結果、子会社株式の減損処理に伴う連結のれん償却額3億79百万円、固定資産の減損損失64百万円を特別損失に計上いたしました。

また、シェアリングエコノミー事業においても、稼働率の回復が見込めない直営拠点を中心に、固定資産等の減損処理を実施、大型店1店舗を計画進捗が良好でないことから店舗造作設備等の固定資産を減損処理し、1億14百万円を特別損失に計上しました。また、主にコロナ禍を背景にリリースした新サービス等において計上された固定資産についても、日常生活の急速な正常化による環境変化を背景とした計画未達により減損を実施し、76百万円を特別損失に計上、これらを合計した6億37百万円を特別損失として計上いたしました。

2. 繰延税金資産の取崩しについて

当社は、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、2023年10月期第3四半期連結累計期間において、最終損益は赤字になったことから、繰延税金資産3億5百万円の取崩し、法人税等調整額2億98百万円を計上した結果、2023年10月期第3四半期連結決算の純損失は9億56百万円となりました。

3. 2023年10月期(通期)連結業績予想数値の修正(2022年11月1日~2023年10月31日)について

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|---------------|------------|------------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 28,200 | 百万円 500 | 百万円 490 | 百万円 260 | 円 銭 13 28 |

| | | | | | |
|---------------------|--------|------|------|--------|--------|
| 今回修正予想(B) | 26,000 | △144 | △145 | △1,156 | △58 97 |
| 増減額(B-A) | △2,200 | △644 | △635 | △1,416 | |
| 増減率(%) | △7.8 | - | - | - | |
| 前期実績 (2022年10月期) | 22,932 | 442 | 476 | 232 | 11 83 |

4. 業績予想修正の理由

当社の主力事業のひとつであるオンデマンドエコノミー事業は、企業のデジタル技術導入や、DX（デジタルトランスフォーメーション）化、AI技術の活用など、中長期的な市場拡大は見込まれており、IT機器のキッティング業務や対面型の設定設置業務は新型コロナウイルス感染症の5類への移行により案件依頼は着実に増加しておりますが、依然として回復は限定的であり、厳しい状況が続いております。

また、当初より第3四半期から第4四半期にかけて予定していた官公庁案件が予定を大幅に下回る受注規模になったことから、売上・利益とも当初計画を大幅に下回りました。特に利益面においては、受注を前提とした準備をしていたこともあり、その準備にかかる費用負担が大きく、下振れの要因となっております。

上記に加え、「1. 連結子会社における特別損失（減損損失、のれん償却額）の計上について」記載のとおり、特別損失6億37百万円、繰延税金資産の取り崩しに伴い法人税等調整額2億98百万円を計上したことから、2022年12月9日に公表いたしました通期連結業績予想を下回る見込みとなり、最新の業績動向を踏まえた結果、「2023年10月期（通期）連結業績予想数値」を修正することいたしました。

5. 2023年10月期配当予想の修正

| | 年間配当金（円） | | |
|---------------------|----------|------|------|
| | 第2四半期末 | 期 末 | 合 計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 前回予想 | | 9.00 | 9.00 |
| 今回修正予想 | | 未定 | 未定 |
| 当期実績 | 0.00 | | |
| 前期実績 (2022年10月期) | 0.00 | 8.00 | 8.00 |

当社グループでは、重点分野への積極的な投資等により確固たる競争力を早期に築くことが重要な課題の一つであると同時に株主の皆様に対する利益還元についても重要な経営の課題として認識しております。

当社は2017年10月期の復配以降、每期安定配当を実施してまいりましたが、上記業績予想の修正のとおり、2023年10月期連結決算は当期純損失を計上する見込みであることから、2023年10月期の配当予想は誠に遺憾ではあります。一旦、「未定」とさせていただいた上で、期末配当につきましては、決定次第、改めて公表させていただきます。

当社グループといたしましては、今回の特別損失計上で負の遺産を一掃、従来以上に販売費及び一般管理費の削減、売上原価を含めた総コストの効率化を図るとともに、新サービスの更なる成長、経営資源の一層の効率化と、収益力の向上に努めてまいります。

（注）上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しております、実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がございます。

以 上